高松ライフを体験してみてわかること

センパイ移住者の声

東京より Iターン

石部香織さん

島しょ部エリア

移住年 _ 平成28年　仕事 _ ライター / 味噌製造

田舎と都市のバランス感がちょうどいい島暮らし

旅の途中に出会ったワクワクを感じる島

ひとり旅の途中でたまたま男木島に立ち寄りました。島に着くと、その日泊まる民宿のご主人が島を案内してくれて、島のことをたくさん教えてくれたんです。島の人の話、島外から引っ越してくる若い人も増えていること、近いうちに地域おこし協力隊の募集があるかもしれないこと。そんな環境なら「私も新しいことに取り組んだりできるかな？」とワクワク感に胸を躍らせて、半年後に始まった地域おこし協力隊の募集に応募。旅行者として初めて男木島を訪れてからちょうど一年後、島に引っ越してくることができました。

暮らしに必要なものはすべて徒歩5分以内に

高松港から男木島へは船で40分。都市部からちょうどいい距離感だなと感じています。車を運転できないので、田舎ながら徒歩だけで暮らせる環境もお気に入り。暮らしに必要なものは通販でも購入できるし、農協の商店や郵便局、畑もあります。自宅から港までは徒歩5分。高松への船は必ず座れるので、都会の満員電車のようなことはなく移動時間もゆっくり過ごせます。頻繁に高松に買い出しに行く生活になるのかなと思っていたけれど、意外にも島の中で暮らしが完結するので2ヶ月くらい島から出ないこともありますよ。

島民全員が地域を担う一員

東京とはちがって、高松では知らない人とでもコミュニケーションをとることがよくあります。市内でも信号待ちのタイミングで世間話をされる方がいたり、商店街でも店主やお客さんが気さくに話しかけてくれたりします。
また、男木島では子供や若い人から高齢の方まで、島の一員として行事や清掃活動などに携わっています。
面倒見の良い方が多く、ご近所同士で助け合いながら暮らしてきた島の文化が感じられます。地域の人とのコミュニケーションやつながりを大事に暮らしたい人には島暮らしが向いているんじゃないかと思います。

東京より Uターン

別枝 知己さん 真実さん

西部エリア

移住年 _ 平成30年　仕事 _ 夫：デザ イナー / 妻：会社員

庭でBBQや水遊び。子どもがのび のび遊べる環境は親にもうれしい

地方移住の決め手は「子育て」

東京にこだわって上京してきた我々も、都会生活を楽しむ一方で、子どもを授かった頃からもっとのびのびと子育てがしたいと思い、地方移住を考え始めました。子どもが走り回るようになり、「静かにしなさい！」と注意し、日々周りに気を遣う環境の中で、家族がゆったりと過ごせる家を構えたい思いが強くなったこと。また東京で震災を経験したことで、自然災害が少ない場所に住みたいという気持ちが強くなったことが背景にありました。真実さんの地元・静岡県も考えましたが、より温暖な気候の知己さんの地元・高松に移住先を決めました。「仕事を辞めて友人もいない土地に引っ越すのは不安だったけれど、子どもにより良い環境をと考えての一大決心です」

親も子どももゆったり暮らせる高松ライフ

高松に来てからは木のぼりに川遊びと自然の中を思いきり駆け回っています。休日には庭でBBQ をしたりプールを広げたりしています。大人は生活スタイルの変化に少し戸惑いもあったけど、子どもたちが慣れるのはあっという間！ 今ではすっかり讃岐弁を話していますよ。
真実さんは「雨が少なくて晴れの日が多いことに日々驚いています。実は静岡に暮らす両親も、私たちの高松での暮らしぶりを知るにつれて高松移住を考え始めているんですよ」

焦らずゆっくり、自分らしさが大切

「生活するにあたって、一番に考えるのが転職（仕事）ですが、リモートが注目を浴びる前の移住でしたが、私も転職先で東京からの仕事を引続き受けています。今はいろんな仕事のやり方があるので、きっと良い方法が見つかると思います」と知己さん。
移住して数ヶ月は不安を抱えていた真実さん。「夫は仕事、子どもは保育園があるけれど、私にはコミュニティがなくて……」やがて子どもを通してママ友ができ、仕事を通して交友関係も広がってきました。「焦らずゆっくりとなじんでいけばいいのかなと思っています」

群馬より Iターン

荻野 悦司さん 香さん

都心部エリア

移住年 _ 平成29年　仕事 _ ワインバー・ショップ経営

たどりついたのは、日々の楽しみがたくさんある街

理想の店を求めて地方に目を向けた

ワインショップを併設したワインバーを開きたくてどこでやろうか考えていた荻野さん。地元は車社会なので難しそう、暖かい地域で暮らしたいという妻の希望を汲んで、妻が訪れたことのある高松が候補に上がりました。荻野さん自身は四国を訪れたことがなく、前情報がないまま視察に来たのが平成29年9月のこと。街なかを歩いてみると、個人経営の飲食店が多くにぎわいが感じられたことから「この街ならば！」と即決。翌月には店舗物件を探し始め、半年後には高松で理想のお店をオープンしたのです。

いろんなものが生活を豊かにしてくれる

雨が少なく、温暖な気候で暮らしやすいところだなと日々感じています。高松に来てから海釣りを始め、釣った魚がお店のメニューに登場することも。高松市内は街がコンパクトにまとまっていて、徒歩でいろいろな場所に行けるのもいいですね。物価が安くて食材も豊か。特に野菜や魚が新鮮でおいしい！ 柑橘の種類も多くて初めて見る種類はつい買ってしまいます。「何もない」と地元の人は言いますが、いろんなものがあって楽しみがいっぱいある街です。これからは四国のほかの県にも出かけてみたいですね。

支援制度をフル活用！周りにも支えられて開業

移住や店舗開業にあたっては、公的サポートを活用しました。香川県の視察補助、高松市の家賃補助制度、新規出店補助制度など移住者や新規開業者向けのサポートは後押しになりました。不動産屋さんに内装屋さんを紹介してもらうなど、周りの方からの助けもあったので移住してスムーズにお店をもつことができました。
高松は企業の支店が多く人の出入りのある街なので、外から来た人に対しておおらかに接してくれます。お店を始めてからも、周りの方に「一緒に何かしませんか？」と声をかけるとすぐに形になり、新しいことを始めやすい風土があります。移住者でも気負いなく暮らしていける空気感が心地よく感じます。